

日本標準商品分類番号
872312

止 しゃ 剤 タンナルビン「ヨシダ」

日本薬局方
タンニン酸アルブミン
Albumin Tannate

承認番号	(61AM)2716
薬価収載	1961年1月
販売開始	1961年1月
再評価結果	1981年8月

貯 法：遮光した気密容器
使用期限：ラベル等に記載

- 【禁 忌(次の患者には投与しないこと)】**
1. 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌(O157等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕
 - ※ 2. 牛乳アレルギーのある患者〔ショックまたはアナフィラキシーを起こすことがある。〕
 3. 経口鉄剤を投与中の患者〔「相互作用」の項参照〕
 4. 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】
細菌性下痢患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

【組成・性状】

1. 組 成

本剤1g中、日局タンニン酸アルブミンを1g含む。
本剤はタンニン酸とタンパク質との化合物であり、そのタンパク質は乳性カゼインである。

2. 製剤の性状

本剤は淡褐色の粉末で、においはないか、又は僅かに特異なにおいがある。
本剤は水又はエタノール(95)にほとんど溶けない。
本剤は水酸化ナトリウム試液を加えるとき、混濁して溶ける。

【効能・効果】

下痢症

【用法・用量】

タンニン酸アルブミンとして、通常成人1日3～4gを3～4回に分割経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
肝障害のある患者〔肝障害を悪化させることがある。〕

2. 相互作用

(1)併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口鉄剤 インクレミンシ ロップ、フェ ロミア、フェル ム、フェロスレ オン、フェロ・ グラデュメット	経口鉄剤との併用に より、相互に作用が 減弱することがある ので併用しないこと。	鉄とタンニン酸が不 溶性の塩を形成する ため。

(2)併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミドの効 果が減弱するおそれ があるので、投与間 隔をあけるなど注意 すること。	本剤が塩酸ロペラミ ドを吸着するためと 考えられる。

3. 副 作 用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

※(1)重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(頻度不明)：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、蕁麻疹、顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

種類\頻度	5%以上又は頻度不明
長期・大量投与 ^{注)}	肝障害
消 化 器	便秘、食欲不振

注) 長期又は大量投与を避けること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

※【薬物動態】

経口投与後、口腔、胃では分解を受けず、腸管内で徐々に分解しタンニン酸を遊離する。

※【薬効薬理】

本剤はタンニン酸がアルブミンと結合し、かつ加熱して硬化処理をほどこしてあるため、水に溶解せず、口腔、胃ではタンニン酸による収れん作用が現れない。腸に至って初めて唾液により徐々に分解してタンニン酸を遊離し、全腸管にわたって緩やかな収れん作用を及ぼし止瀉作用を示す。

※【取扱上の注意】

配合変化：アルカリにより分解する。抱水クロラルやヨウ化物と混合すると湿潤する。

【包 装】

500g

【主要文献】

- ※1) 第十七改正日本薬局方解説書 C-3026 廣川書店(2016)
- 2) 熊谷洋：臨床薬理学大系 8、192 中山書店(1966)
- 3) 上條一也：グッドマン・ギルマン薬理書 1224 廣川書店(1977)

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部
〒164-0011 東京都中野区中央 5-1-10
TEL 03-3381-2004

製造販売元



吉田製薬株式会社
埼玉県狭山市南入曽 951